

【学校長コラム】 大けやきに教えてもらったこと...

4月になり2週間が過ぎ、児童はしっかりと過ごし、学校生活も軌道に乗ってきました。

そんなある日のこと、職員が「校長先生、大変です！」と駆け込んできました。どうしたのかと問うと「大けやき、両脇のけやきは新芽が出ているのに、真ん中の木だけ、全然新芽が出ていません！枯れてしまったのでしょうか？」と言うのです。

確かに、真ん中の大けやきだけ、一枚も葉が見えません。少し心配になり、ネットで調べてみると、こんなことが書いてありました。

「ケヤキの葉が開くには、ある程度の低温が必要で、春になるまで葉を開かないことが あります。また、ケヤキは個体差が大きく、隣の木が芽を出しても、全く芽が吹かない こともあります。」

なるほど...

「大けやきは、どんなに暑い夏でも、冬の厳しい寒さにも、不平も不満も言わずに、500 年以上ずっと立ち続けています。そして毎年、自分の力で、一番よいタイミングで瑞々 しい若葉を茂らせます。」

この言葉は、3月の卒業式式辞で、私が卒業生に贈った言葉です。それに加えて、さらにけやきのすごさを感じた体験でした。「寒さがなければ葉を開かない」「隣の木が芽を出しても芽吹かない」...。また一つ、けやきに教えられた気がします。

顧みて、子どもたちはどうでしょう？「何の苦勞も挫折も経験しない」「周囲の人と同じことを良しとする」...。いろいろな苦勞がその後の飛躍に生きる、周りと同じでなくてもよい、自分のタイミングを大切に作る...。子供と日々接する私たちも気をつけていかなければならないと思います。

また一つ、大けやきに大切なことを教えてもらった気がします。

